

事業名 子どもとつくる子ども食堂～さばんなかふえ～

対象 子ども、大人

事業内容

毎月1回、市営住宅「森の里荘」の集会所で実施しています。現代で生きる子どもたちは様々な社会的要因により「時間・空間・仲間」が圧倒的に少なくなっています。「食」「遊び」「学び」は子どもたちにとって生きることそのもの。「子どもとつくる子ども食堂」は、子どもたちでメニューを考え、一緒に作ることを重ねていくことで、食に関心を持ち、作る力を育むことを目的にしています。この事業は子どもが自分の意志で自由に過ごせる環境を整え、生きる力を育み、自らの力を発揮しながら自己実現・社会参画の機会を得て、健やかに成長することを応援します。

事業のポイント

- ・一緒に食事をつくることを重ねていくことで、食に関心を持ち、自分の力で出来ることが増え、子ども本来の力が発揮できる。
- ・地域の多様な方が得意分野（裁縫・手芸・大工仕事など）を持ち寄り子どもと一緒にすることで、コミュニケーションを通して、さまざまなことを継承する機会となる。
- ・「おいしい」「たのしい」「あたたかい」を感じる食卓づくりを大切にしたい、多世代による温かい場が生まれる。

こんな力を身につけてほしい：担当者の願い

- ・多様性を尊重する力
- ・多様な人とつながり協働する力
- ・生活習慣を確立し、日常生活をおくる力
- ・計画や目標を立て、目標達成までのプロセスを管理する力

エピソード

2016年夏に始動した当初は、会場に入ることにも躊躇して遠巻きに見ているような子どもたちも多かったのですが、回を重ねるごとに安心して参加できる場として認知され、次第に参加者も増えてきました。「さばんなかふえ」ではメニューの中の一品は季節に因んだものにして、子どもたちと一緒に作りまします。例えば、3月には、地元特有の桃の節句のおもち「おこしもの」をつくりました。米粉に色をつけて、花や魚の木型に詰めて蒸します。「はじめて食べた!」「こんなに簡単にできるんだね」と子どもたちからの声。季節や文化を楽しみながら味わいます。

実施場所の森の里荘は大規模な市営住宅です。同じ地区で「遊び」を中心に据えたプレーパーク事業や「学び」を中心に据えた学習サポート事業も展開しており、スタッフ・学生サポーターも横断的にかかわっているため、常連の子どもたちとあらゆる角度からかかわれるという点も大きな強みです。

地域との連携は、自治会と共催というかたちをとって運営しています。立ち上げ時には、「おとな食堂」と銘うった「地域ミーティング」を実施しました。自治会の協力のもと毎月の様子をおたよりにして回覧板でまわしたり、当日構内放送をかけてもらうことで、子どもだけでなく地域の大人たちの参加も増えてき

ました。地域の多世代が、大きな家族のようにあたたかい食卓を囲むことから、様々な相乗効果が紡ぎだされることを期待しています。